

四字熟語（105問） 解答

中学受験 国語（語彙）

名前 _____ 月 _____ 日 _____ 点 _____

意味に合う四字熟語になるように、□に入る漢字を書きましょう（□1つに漢字1字）。

1 苦しみながら頑張ること 「□□苦闘」	悪戦 悪戦苦闘（あくせんくとう）
2 悪口やあることないことを言う 「□□雑言」	悪口 悪口雑言（あくこうざうごん）
3 おたがいの思いや考えが、ぴったり一致（いっち）すること 「□□投合」	意気 意気投合（いきとうごう）
4 大勢の人が、そろって同じことを言うこと 「□□同音」	異口 異口同音（いくどうおん）
5 言葉に出さなくても、気持ちが通じ合うこと 「以□伝□」	心心 以心伝心（いしんでんしん）
6 わき目もふらず、ひとつのことだけに打ちこむこと 「□意□心」	一専 一意専心（いちいせんしん）
7 今の会いはもうめぐってこないかもしれないと思って、その時を大切に すること 「□期□会」	一期一会 一期一会（いちごいちえ）
8 短くてちょっとした言葉 「□言□句」	一言半句 一言半句（いちごんはんく）
9 ほんのわずかな時間が何年にも思えるほど、待ち遠しく思うこと 「□日□秋」	一日千秋 一日千秋（いちじつせんしゅう）
10 物事の最初から最後まで、くわしいいきさつ 「□部□終」	一部始終 一部始終（いちぶしじゅう）
11 一目で遠くまで見渡せること 「□望□里」	一望千里 一望千里（いちぼうせんり）
12 物事のなりゆきが変わるたびに、喜んだり心配したりすること 「□喜□憂」	一喜一憂 一喜一憂（いっきいちゆう）
13 あることをして、同時にふたつの利益があること 「□拳□得」	一挙兩得 一挙兩得（いっきりょうとく）
14 進んだり後もどりしたりすること。よくなったり悪くなったりすること 「□進□退」	一進一退 一進一退（いっしんいつたい）
15 何人かの人、気持ちを合わせ、まるでひとりの人のように強く結びつく こと 「□□同体」	一心同体 一心同体（いっしんどうたい）
16 ひとつのことに集中して、ほかのことに気をとられないこと 「□□不乱」	一心不乱 一心不乱（いっしんふらん）
17 生涯（しょうがい）にまたとないほどの、大事なこと 「□世□代」	一世一代 一世一代（いっせいいちだい）
18 あることをして、同時にふたつの得をすること 「□石□鳥」	一石二鳥 一石二鳥（いっせきにちょう）
19 ひと朝かひと晩ほどの、ごくわずかな時間 「□朝□夕」	一朝一夕 一朝一夕（いっちょういっせき）

20 よいところもあれば、悪いところもあること
「□長□短」

— —
一長一短（いっちょういったん）

21 言葉や行いの奥（おく）に、ほかの意味がこめられていること 「意味□□」	深長 意味深長（いみしんちょう）
22 うろたえて、あっちへ行ったりこっちへ行ったりすること 「□往□往」	右左 右往左往（うおうさおう）
23 昔のことをよく調べて、そこから新しい知識や考えを得ること 「□□知新」	温故 温故知新（おんこちしん）
24 自分の都合のよいように、物事を言ったりしたりすること 「我□引□」	田水 我田引水（がでんいんすい）
25 足りないところや悪いところが、少しもないこと 「完全□□」	無欠 完全無欠（かんぜんむけつ）
26 ほんのわずかなちがいで、大きな危険におちいりそうな、あぶない状態 「危機□□」	一髪 危機一髪（ききいっぱつ）
27 だめになりかけたものを、立ち直らせること 「起□回□」	死生 起死回生（きしかいせい）
28 文章や話を、始まり・受け・変化・まとめの四つの順で組み立てる方法 「□□転結」	起承 起承転結（きしょうてんけつ）
29 よろこび・いかり・かなしみ・たのしみなどの、人のさまざまな感情 「□怒□楽」	喜怒哀 喜怒哀楽（きどあいらく）
30 様子が急激に変わること 「急転□□」	直下 急転直下（きゅうてんちょっか）
31 これまでに例がなく、これから先もないと思われるほど、めずらしいこと 「空□絶□」	前後 空前絶後（くうぜんぜつご）
32 群集内に生まれる特殊な精神状態 「□□心理」	群集 群集心理（ぐんしゅうしんり）
33 かたよりがなく、自分の利益を考えないこと 「公平□□」	無私 公平無私（こうへいむし）
34 かくしごとやずるいところがなく、堂々としていること 「公明□□」	正大 公明正大（こうめいせいだい）
35 手がかりがなく、どうしてよいか見通しが立たないこと 「□里□中」	五霧 五里霧中（ごりむちゅう）
36 何度もくり返して 「再□再□」	三四 再三再四（さいさんさいし）
37 冬から春にかけて、寒い日が数日続いたあと暖かい日が数日続き、これをくり返すこと 「□寒□温」	三四 三寒四温（さんかんしおん）
38 少数の人が固まって行き来すること 「□々□々」	三五 三々五々（さんさんごご）
39 わが身のことや、したことを、みずからほめること 「□画□賛」	自自 自画自賛（じがじさん）
40 必要なものを、自分で作ってまかなうこと 「自□自□」	給足 自給自足（じきゅうじそく）

41 ひどく苦しむこと。たいへん苦勞すること 「□苦□苦」	四八 四苦八苦（しくはっく）
42 わが身のした悪い行いのむくいを、その本人が受けること 「□業□得」	自自 自業自得（じごうじとく）
43 何度失敗しても、くじけずに立ち上がること 「□転□起」	七八 七転八起（しちてんはっき）
44 はげしい苦しみや痛みで、転げまわってもがくこと 「□転□倒」	七八 七転八倒（しちてんぱとう）
45 弱い者が、力のある者のえじきになること 「弱□強□」	肉食 弱肉強食（じゃくにくきょうしょく）
46 始めからおしまいまで、考えや態度が変わらないこと 「□始□貫」	終一 終始一貫（しゅうしいっかん）
47 思いのままに、どのようにでもできること 「□由□在」	自自 自由自在（じゆうじざい）
48 好みや考えは、人によってそれぞれちがうということ 「□人□色」	十十 十人十色（じゅうにんという）
49 朝から晩まで、一日じゅう。いつも 「□□時中」	四六 四六時中（しろくじちゅう）
50 あることをきっかけに、気持ちをすっかり入れかえること 「□機□転」	心一 心機一転（しんきいつてん）
51 ささいなことを、おおげさに言うこと 「針□棒□」	小大 針小棒大（しんしょうぼうだい）
52 天気のよい日は田畑をたがやし、天気の悪い日は家で本を読む、ゆったりとした暮らし 「□耕□読」	晴雨 晴耕雨読（せいこううどく）
53 心にやましいところが全くない 「□天□日」	青白 青天白日（せいてんはくじつ）
54 どうにもならない、追いつめられた立場や状態 「□体□命」	絶絶 絶体絶命（ぜったいぜつめい）
55 めったにめぐってこない、またとないよい機会 「□載□遇」	千一 千載一遇（せんざいいちぐう）
56 いろいろなものが、それぞれにちがっていること 「□差□別」	千万 千差万別（せんさばんべつ）
57 今までに例がないような、めずらしいこと 「□代□聞」	前未 前代未聞（ぜんだいみもん）
58 さまざまに、変わり続けること 「□変□化」	千万 千変万化（せんぺんばんか）
59 新しいことを考え出し、いろいろとくふうすること 「□□工夫」	創意 創意工夫（そういくふう）
60 細かい点にちがいはあっても、だいたい似たようなものであること 「大□小□」	同異 大同小異（だいどうしょうい）

61 昼も夜も休まず急いでやること 「□□兼行」	昼夜 昼夜兼行（ちゅうやけんこう）
62 その人の能力や性格に合った役目や地位につけること 「□材□所」	適適 適材適所（てきざいてきしょ）
63 いなずまが光るように、動きがきわめてすばやいこと 「電光□□」	石火 電光石火（でんこうせっか）
64 大雨・大風・大きなゆれなど、自然界に起こる大きなわざわい 「□変□異」	天地 天変地異（てんぺんちい）
65 見かけはちがうようでも、中身はほとんど変わらないこと 「□工□曲」	同異 同工異曲（どうこういきょく）
66 人にたよらず、自分の力で信じる道を進むこと 「□立□歩」	独独 独立独歩（どくりつどっぽ）
67 あちこち、いそがしく旅をすること 「□船□馬」	南北 南船北馬（なんせんほくば）
68 数が多くても、値段がとても安いこと 「□束□文」	二三 二束三文（にそくさんもん）
69 時がたつにつれて、たえまなく発達していくこと 「□進□歩」	日月 日進月歩（にっしんげつぽ）
70 だれからもよく思われようと、だれにでもいい顔をする人 「□□美人」	八方 八方美人（はっぽうびじん）
71 今にも命が尽（つ）きそうなほど、ひどい状態 「半□半□」	死生 半死半生（はんしはんしょう）
72 本当だと思う気持ちと、うたがう気持ちが、半分ずつあること 「半□半□」	信疑 半信半疑（はんしんはんぎ）
73 ねらってうつたびに、必ず当たること。また、予想などがすべて当たること 「□発□中」	百百 百発百中（ひゃっぱつひゃくちゅう）
74 何も言わずに実行すること 「□□実行」	不言 不言実行（ふげんじっこう）
75 技術が発達して便利になっていくこと 「文明□□」	開化 文明開化（ぶんめいかいか）
76 ひれ伏すこと 「□□低頭」	平身 平身低頭（へいしんていとう）
77 まわりのことなど気にせず、勝手気ままにふるまうこと 「傍□無□」	若人 傍若無人（ぼうじゃくぶじん）
78 呼び方や肩書き（かたがき）ばかりで、中身がともなわないこと 「有□無□」	名実 有名無実（ゆうめいむじつ）
79 気をゆるめると失敗のもとになるから、注意しなさいということ 「油断□□」	大敵 油断大敵（ゆだんたいてき）
80 準備が、すみずみまで行き届いていて、手ぬかりがないこと 「□意□到」	用周 用意周到（よういしゅうとう）

81 行いがきちんとしていて、りっぱである 「品行□□」	方正 品行方正（ひんこうほうせい）
82 あれこれ話し合っても、むだであること 「□□無用」	問答 問答無用（もんどうむよう）
83 話の筋道がきちんと通っている 「理路□□」	整然 理路整然（りろせいぜん）
84 力の限り、一生けんめい努力する 「粉□砕□」	骨身 粉骨碎身（ふんこつさいしん）
85 見かけはりっぱだが、中身がともなわないこと 「羊頭□□」	狗肉 羊頭狗肉（ようとうくにく）
86 ただそれだけで、ほかに同じものがないこと 「唯□無□」	一二 唯一無二（ゆいいつむに）
87 心にやましいところがなく、静かにすみきっていること 「明鏡□□」	止水 明鏡止水（めいきょうしすい）
88 まちがいなく本物であること 「□真□銘」	正正 正真正銘（しょうしんしょうめい）
89 いろいろな経験を積んで、ずるがしこくなっていること。また、その人 「海□山□」	千千 海千山千（うみせんやません）
90 むやみに、たくさん飲み食いすること 「□飲□食」	牛馬 牛飲馬食（ぎゅういんばしょく）
91 うわべだけを美しくかざった言葉 「美□麗□」	辞句 美辞麗句（びじれいく）
92 命令や方針が、たびたび変わって定まらない 「□令□改」	朝暮 朝令暮改（ちょうれいぼかい）
93 ためらわずに、きっぱりと物事を決めたり処理したりする 「□刀□断」	一両 一刀両断（いっとうりょうだん）
94 少し知っているだけで、十分にわかっていないこと 「一知□□」	半解 一知半解（いっちはんかい）
95 何度も頭を下げて、たのみこんだり、礼を言ったりすること 「□拝□拝」	三九 三拝九拝（さんぱいきゅうはい）
96 広くいろいろな知識をもち、多くの才能をもっていること 「□□多才」	博学 博学多才（はくがくたさい）
97 世の中がよく治まって、おだやかなこと 「□□太平」	天下 天下太平（てんかたいへい）
98 自然の景色が、清らかで美しいこと 「□紫□明」	山水 山紫水明（さんしすいめい）
99 あるものを、とても大切にすること 「後生□□」	大事 後生大事（ごしょうだいじ）
100 海岸の、美しい景色 「白砂□□」	青松 白砂青松（はくしゃせいしょう）

101 大きな集団の下っぱでいるより、小さな集団の長になるほうがよい 「鶏□牛□」	口後 鶏口牛後（けいこうぎゅうご）
102 あらゆる方面 「□方□方」	四八 四方八方（しほうはっぽう）
103 当事者よりも、そばで見ている人のほうが、物事のよしあしがよくわかる 「□目□目」	岡八 岡目八目（おかめはちもく）
104 失敗したあとでも、すぐに改めればおそくはない 「亡羊□□」	補牢 亡羊補牢（ぼうようほうろう）
105 始めは勢いがよいが、終わりはふるわない 「竜□蛇□」	頭尾 竜頭蛇尾（りゅうとうだび）